



中期経営計画 (2026~2028)



阪神高速
先進の道路サービスへ



阪神高速道路は、258.1kmのネットワークを有する関西都市圏の大動脈として、関西のくらしや経済の発展を支えています。

前中期経営計画(2023~2025)期間においては、大阪・関西万博に貢献するアクセスルートの整備や交通円滑化の取り組みなどを中心に、「サステナブル」「インクルーシブ」「レジリエント」をキーワードとするさまざまな取り組みを推進してまいりました。

近年、自然災害の深刻化、構造物の老朽化、社会資本整備の担い手不足、労務費の高騰など、当社を取り巻く状況は大きく変化しています。また、環境・社会課題の複雑化、お客さまニーズの多様化、デジタル・革新的技術の進展

などにより、高速道路に求められる機能や役割も大きく変化していくことが予想されます。

こうした変化に対応し、安全・安心・快適なネットワークを通じてお客さまの満足を持続的に実現するため、今般、「中期経営計画(2026~2028)」を策定いたしました。本計画は、当面・喫緊の課題も踏まえつつ、「阪神高速グループビジョン205X」で示した阪神高速グループの「意志ある未来」を実現するためのアクションプランとして、3年間に取り組む具体的な施策を計画したものです。

本計画においては、ネットワーク強化や高速道路の長期的な機能維持、地域の魅力の発見・向上などを通じた「関西の持続的な発展への貢献」、新たな価値を創出するための「先端・革新的技術の実装」、阪神高速が保有する技術力・ナレッジを活用したサプライチェーン全体での省力化・省人化などによる「担い手不足への対応」の3つの領域を重点項目として位置付けております。

阪神高速グループは、「先進の道路サービスへ」というグループ理念の具現化を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、自らも持続的に進化・成長することを目指し、グループ一丸となって本計画を推進してまいります。

阪神高速道路株式会社
代表取締役社長
上松 英司

CONTENTS

中期経営計画
2026-2028

中期経営計画の位置づけ	2
前中期経営計画(2023~2025)の総括	3
主な経営環境と取り組みの方向性	4
中期経営計画の重点項目	5

Mission Field

変わらぬ使命をサステナブルに遂行	6
------------------------	---

Innovation Field

新たな価値の創出

-01. 移動・モビリティの高度化	15
-02. 多様な機能を提供する都市インフラ	19
-03. 関西さらにはグローバル視点での価値	21

Human Capital Field

人の成長と技術・ナレッジの進化	28
-----------------------	----

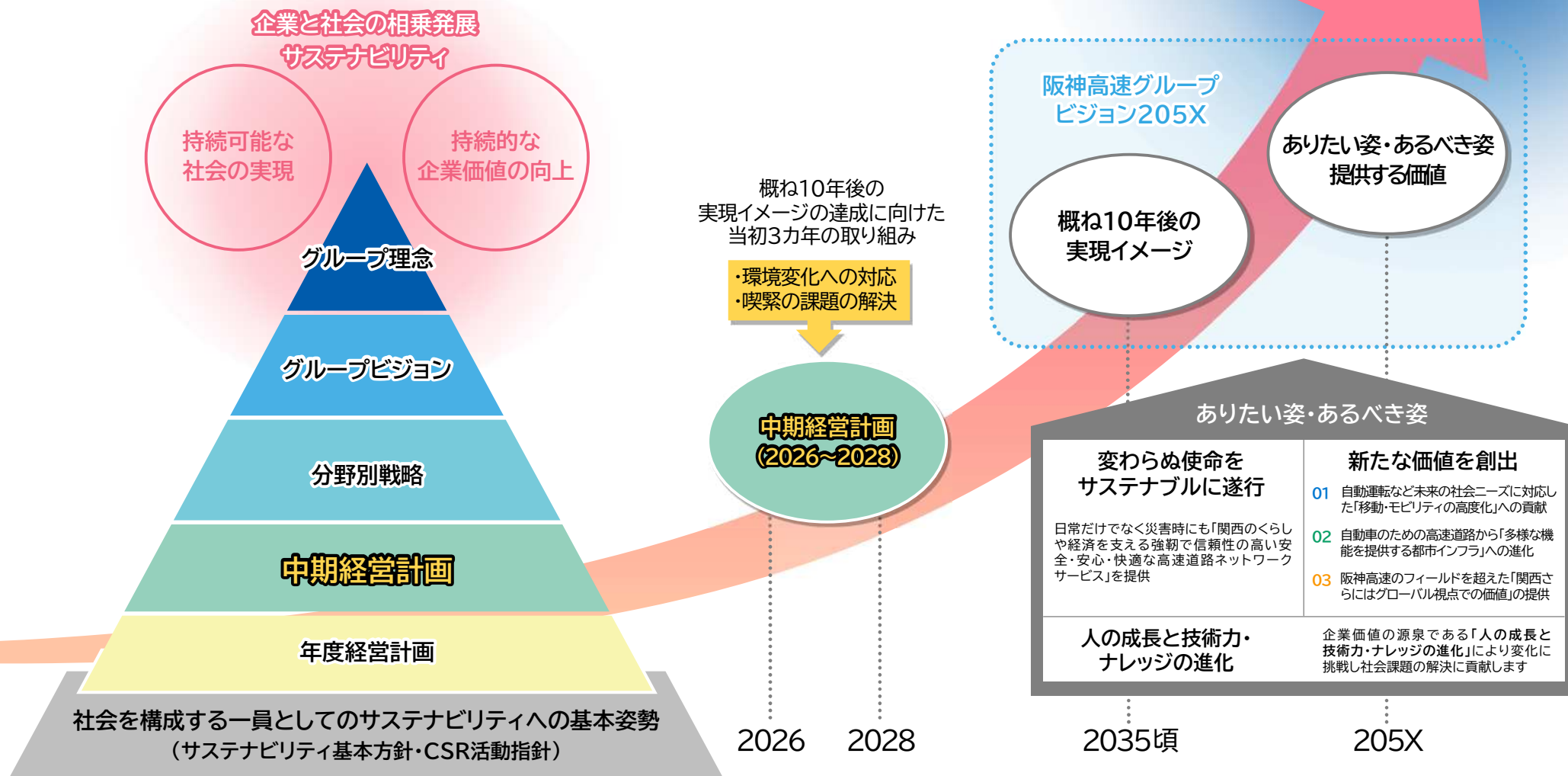
阪神高速グループの

サステナビリティへの基本姿勢	34
コーポレートガバナンスなどの管理体制	35
阪神高速グループ一覧	36
中期経営計画の目標一覧	37

中期経営計画の位置づけ

阪神高速グループは、グループビジョン205Xにおいて、205X年を想定した「ありたい姿・あるべき姿」と「提供する価値」からのバックキャストと、目下の事業環境の変化や将来見通しからのフォアキャストを組み合わせて、“概ね10年後の実現イメージ”を設定しています。

当社の中期経営計画は、この“概ね10年後の実現イメージ”に到達するための取り組みと、現在直面している、または近い将来に直面する環境変化や喫緊の課題に対応するための取り組みの双方を意識し、3年間の具体的な実行計画として策定しました。



前中期経営計画（2023～2025）の総括

前中期経営計画の期間中、高速道路事業では、アクセスルートの整備や交通円滑化の取り組みなど大阪・関西万博に貢献する施策や、ネットワーク整備、リニューアルプロジェクト、お客さま満足の向上にグループ一丸となって取り組んできました。関連事業では、一層の規模拡大に向けて事業を展開した結果、営業収益は目標を達成し、営業利益率は受注案件の進捗に応じた年度分布の偏りにより最終年度では目標値を下回ったものの、期間平均では目標を上回りました。

また、これらの取り組みを通じて、建設プロジェクトの推進、道路機能の長期かつ安定的な維持、革新的技術の開発・実装、担い手不足への対応などを今後の課題として改めて認識しています。

前中期経営計画(2023～2025)の主な成果

1. 最高の安全と安心を提供する阪神高速

- 大規模更新等工事(喜連瓜破付近、阿波座付近)工期を前倒して完了
- 耐震補強工事などの対策を着実に推進
- 交通事故削減に向けて案内標識改善やカラー舗装施工などの対策を継続
- 通行止め時の工事集約、パッケージ補修などにより、維持管理の合理化を実現

3. 世界水準の卓越した都市高速道路技術で発展する阪神高速

- 低炭素コンクリートの試験施工を実施
- 床版取替の急速施工技術(HSPJ床版)の試験施工を実施
- 交通状況予測に係る実証実験システムを構築

5. 関西の発展に貢献し、地域・社会から愛され信頼される阪神高速

- 道路照明のLED化、再生可能エネルギー電力の調達などを進捗

大阪・関西万博に貢献し、未来社会を描く阪神高速

- 淀川左岸線(2期)の万博会場へのアクセスルートとしての活用、ボトルネック区間(湾岸舞洲出口・天保山JCT)における交通容量の拡大に関する事業を完遂
- 湾岸線などで舗装などの補修を実施し、アクセスルートの走行環境を改善
- 万博会場へのアクセスルートにおける自動運転バスの走行支援を実施
- モビリティ認証技術を活用し、万博P&R利用料金のダイナミックプライシングに協力し、将来の社会実装の可能性を実証
- 万博への来場案内や関西全体へのおでかけ案内により地域連携に寄与

2. もっと便利で快適なドライブライフを実現する阪神高速

- 淀川左岸線(2期)、大阪湾岸道路西伸部など、共同事業者とともにネットワーク整備を着実に推進
- 累計51箇所の料金所で、ETC専用運用を開始
- 阪神高速に関する交通情報などを一括入手できるLINE公式アカウントを構築
- 5号湾岸線(泉佐野方面行)に新しく「中島PA」をオープン

4. お客さまや社会に満足をお届けする多彩なビジネスを展開する阪神高速

- 技術外販、用地取得支援事業などにおいて業務を継続的に受注・推進
- 高石市・泉大津市・忠岡町と地域連携協定を締結し、周遊施策を実施
- 国際事業にて新規コンサルティング業務8件をJICAから受注
- タイ国において維持管理ビジネスを実施する合弁現地法人を設立

6. 経営基盤を確立し、グループ社員がやりがいを実感できる阪神高速

- 業務プロセスの可視化やデジタル技術の活用による業務効率化の推進
- 多様な人材活用のための風土醸成、多様なライフスタイルへの対応などの実施

計画値(高速道路事業)			財務指標(関連事業)		
	[累計]			[最終年度(連結)]	
	計画	実績(見込)		計画	実績(見込)
料金収入(億円)	5,543	5,554	営業収益(億円)	60	61
道路資産 賃借料(億円)	4,160	4,069	営業利益率(%)	14	9

引き続き取り組むべき課題

- ネットワーク機能強化に向けた建設プロジェクトの着実な推進
- 道路機能の長期かつ安定的な維持に向けた大規模更新等事業の実施
- 維持管理のコスト増大や担い手不足への対応
- 大阪・関西万博レガシーを含む革新的技術の開発・実装
- 阪神高速のサプライチェーン全体での省力化・省人化
- 保有する技術力・ナレッジの幅広い活用と進化

主な経営環境と取り組みの方向性

新たな中期経営計画の策定に当たっては、当社を取り巻く最近の社会情勢・社会課題や当社が直面する課題などから、計画期間における主な経営環境を想定し、前計画からの連続性も考慮しながら、今後の取り組みの方向性を整理しています。

主な経営環境

気候変動対策・脱炭素化に向けた社会的要請

激甚化・頻発化する自然災害

ネットワーク機能強化への期待

構造物の老朽化

少子高齢化・社会資本整備の担い手不足

デジタル技術の進展

多様化するライフスタイルニーズへの対応

DEIの推進

安全・安心・快適な道路サービスへの期待

ステークホルダーからの信頼性向上

革新的技術の開発・実装

労務費・資材費の高騰

M 変わらぬ使命をサステナブルに遂行

1. ネットワーク整備の推進
2. 安全・安心・快適なサービスの一層の体感
3. 長期的な道路機能の維持
4. 大規模災害時における安全と道路機能の確保

I 新たな価値の創出

I-01 移動・モビリティの高度化

1. 移動・輸送の進化への貢献
2. 多様な移動サービスの提供

I-02 多様な機能を提供する都市インフラ

1. 周辺地域と調和した景観の形成
2. 阪神高速の有効活用に向けた検討

I-03 関西さらにはグローバル視点での価値

1. 持続可能な地域づくり
2. モビリティ認証パッケージの提供
3. 保有資産(ハード)などを活用した事業の展開
4. 技術・ノウハウを活用した事業の展開
5. 気候変動への対応

HC 人の成長と技術力・ナレッジの進化

1. 人の成長
2. 組織力の強化
3. 技術力・ナレッジの進化
4. 生産性の向上・全体最適化
5. 社会との共創

※取り組みの方向性は、阪神高速グループビジョン205Xの枠組みに基づき整理
Mission Field(M) / Innovation Field(I) / Human Capital Field(HC)

中期経営計画の重点項目

阪神高速グループは、「サステナビリティ」を社会の共通の価値観と認識し、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、自らも持続的に進化・成長することを目指しており、その実現に向けて、計画期間においては「関西の持続的な発展への貢献」「先端・革新的技術の実装」「担い手不足への対応」に重点的に取り組みます。

項目	内容	主な取り組み
関西の持続的な発展への貢献	関西のくらしや経済の持続的な発展に貢献するため、渋滞解消のためのネットワーク強化、高速道路の長期的な機能維持と効率的な活用に加えて、ライフスタイルニーズの多様化に応える地域の魅力の発見・向上などに、地域と共に取り組んでいきます。	<ul style="list-style-type: none">● 淀川左岸線(2期)、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線の着実な推進● 11号池田線 加島付近、15号堺線 湊町付近など、事業化済みの大規模更新等事業の着実な推進● 料金所のETC専用化・無人化の推進● 複数地域の周遊促進など、地域と地域をつなぐ企画の実施
先端・革新的技術の実装	大阪・関西万博レガシーとなる新技術の社会実装を率先しながら、それらを含めた革新的技術の開発・実装や、デジタル技術の利活用を進めることで、お客さまのご要望・ご期待や社会課題に対応し、新たな価値を創出していきます。	<ul style="list-style-type: none">● 自動運転実現に必要な構造、運用、設備などの検討● 交通デジタルツインに基づき交通の最適化を図るプロアクティブな交通マネジメントの本格実装を目指した検討の深化● モビリティ認証パッケージの提供● 地球環境保全に資する技術開発の推進
担い手不足への対応	社会課題である担い手不足に対応するため、阪神高速のサプライチェーン全体での省力化・省人化の取り組みや、保有する技術力・ナレッジの幅広い活用などにより、業務の効率化と生産性向上を図り、全体最適化を推進します。	<ul style="list-style-type: none">● 維持管理に係る業務プロセス効率化に向けたデータ利活用の推進● 道路等インフラの維持管理や用地取得支援などのノウハウを活用した事業を推進し、自治体などの業務を支援● 受発注者双方の調達業務の効率化に向けた「阪神高速版調達ポータル(PROZIT)」の全社展開● 建設現場での生産性向上に資する工法・資材などの積極的活用に向けた取り組みの推進



Mission Field

変わらぬ使命をサステナブルに遂行

1. ネットワーク整備の推進
2. 安全・安心・快適なサービスの一層の体感
3. 長期的な道路機能の維持
4. 大規模災害時における安全と道路機能の確保

M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

1 ネットワーク整備の推進

ミッシングリンクを解消し、お客さまの利便性向上、関西経済の活性化などに寄与するネットワーク整備を推進します。また、大規模かつ高い技術力を要するネットワーク整備を支える新しい技術の開発・活用を推進します。

(1) 関西のくらしや経済を支える建設プロジェクトの推進

- 淀川左岸線(2期)、淀川左岸線延伸部、大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線の着実な推進

■ 大阪都市再生環状道路や大阪湾岸道路の整備により期待される効果

- 大阪都心部や3号神戸線における慢性的な渋滞の緩和
- 国際コンテナ戦略港湾(大阪港・神戸港)への定時性確保による物流効率化
- 神戸空港などへのアクセスの定時性の向上による人流活性化と関西3空港間の連携強化
- 災害、事故などの緊急時における代替路確保

■ 全国の都市高速道路における渋滞損失(JCT区間別)

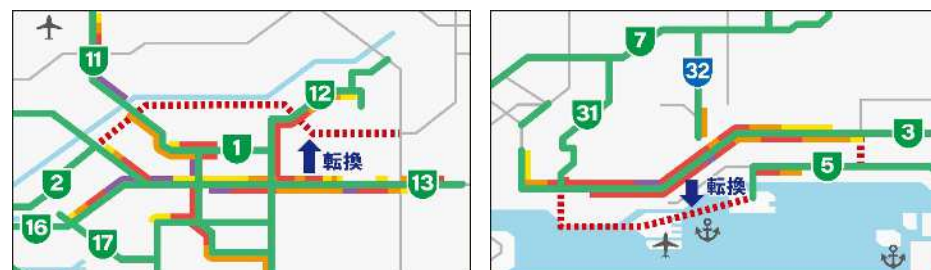
順位	路線名	渋滞損失時間(万人・時間/年)
1	阪神高速 3号神戸線(下り) / 西宮JCT → 第二神明接続部	291.9
2	阪神高速 3号神戸線(上り) / 第二神明接続部 → 西宮JCT	252.9
3	首都高速 湾岸線(西行) / 東関東道接続部 → 葛西JCT	168.2
4	阪神高速 13号東大阪線(上り) / 東大阪JCT → 東船場JCT	158.5
5	首都高速 5号池袋線(上り) / 美女木JCT → 板橋JCT	153.8

(出典:2020年6月 国土交通省「平成31年・令和元年 年間の渋滞ランキング」)

■ 阪神高速道路における渋滞状況

交通集中により渋滞している13号東大阪線や3号神戸線から、新規路線に交通が転換することで渋滞が緩和され、定時性の向上が期待される。

凡例	渋滞状況
■	8時間以上 / 日渋滞
■	4~8時間 / 日渋滞
■	2~4時間 / 日渋滞
■	1~2時間 / 日渋滞



13号東大阪線など大阪都心部における渋滞状況 3号神戸線における渋滞状況
出典:(2025年11月におけるトラフィックカウンターデータ(平日平均))



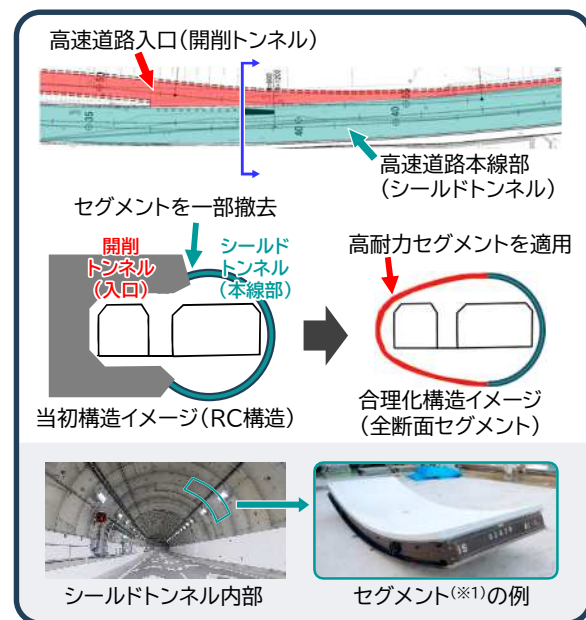
M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

(2) 建設プロジェクトを支える先進技術の開発

- 大規模かつ高い技術力を要する建設プロジェクトを支える新しい技術の開発・活用の推進
- 設計・施工を合理化するプロセスの構築及び先進技術の採用

■ シールド・開削トンネル接続区間の構造検討

シールドトンネル(本線部)と開削トンネル(入口)を合流区間で接続させる際の、鋼製セグメント※1と鉄筋コンクリート構造の変形特性の違いによる耐震性、維持管理性の課題を解決する合理的な構造の適用に向けた検討を推進



(※1)セグメント:シールドトンネル壁面(図中緑色部分)を構成する多数に分割された部材

■ 長大斜張橋における耐風安定性評価手法の確立

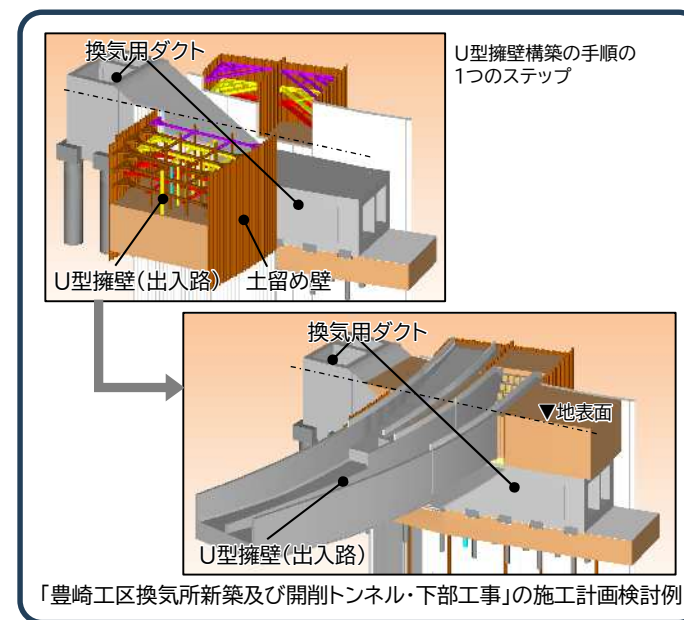
風の影響を大きく受ける長大斜張橋の建設において、国内初の試みとして、スーパーコンピュータ「富岳」による高度な数値シミュレーションにより、橋梁の耐風安定性を解析的に評価する手法の確立を目指して検討を推進



(※2)連成解析:2つ以上の異なる物理現象(本検討では、風(流体)と斜張橋(構造))が互いに影響し合う“相互作用”を同時に考慮した解析手法

■ 設計・施工へのBIM/CIM※3の活用

狭い地下空間で交差する換気用ダクトと道路構造物の位置関係や施工手順などをBIM/CIMを活用して立体的に可視化し、設計段階での干渉チェックや施工手順を明確化することにより生産性向上などを実現



(※3)BIM/CIM: 3次元モデルに属性情報を付与・連携させ、調査、測量、設計、施工及び維持管理などの効率化・高度化を目指す取り組み

M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

2 安全・安心・快適なサービスの一層の体感

お客さまが「安全・安心・快適」を実感できる道路サービスの実現を目指し、最新技術を取り入れた交通安全対策や渋滞対策、パーキングエリアにおけるサービスの高度化など、多面的な取り組みを展開します。

また、料金設定の多様化への対応や料金収受の安定的・効率的な実施に向け、料金所のETC専用化・無人化を一層推進します。

(1) 安全性の向上

- 良好な走行環境の維持及び逆走・誤進入に関するデータなどの詳細分析を踏まえた交通安全対策の推進
- 交通に関する異常検出へのAI画像処理技術などの活用に向けた検証
- デジタル技術の活用などによる多言語に対応した伝達性・到達性の高い情報提供手法の検討・開発
- XR技術※などを活用した規制資機材の仮想化に関する検討

数値目標

死傷事故率

2028年度
目標値

10.0 件/億台キロ

数値目標

逆走対策

2028年度
目標値

重点箇所の整備

4 箇所完了

数値目標

快適走行路面率

2028年度目標値

95 %



■ 良好な走行環境の維持



過酷な路面環境で傷んだ舗装の都度補修



通行止リニューアル工事による全面的な舗装の取り換え(事例:2021年環状線北行RN工事)

■ XR技術を活用した交通管理の高度化

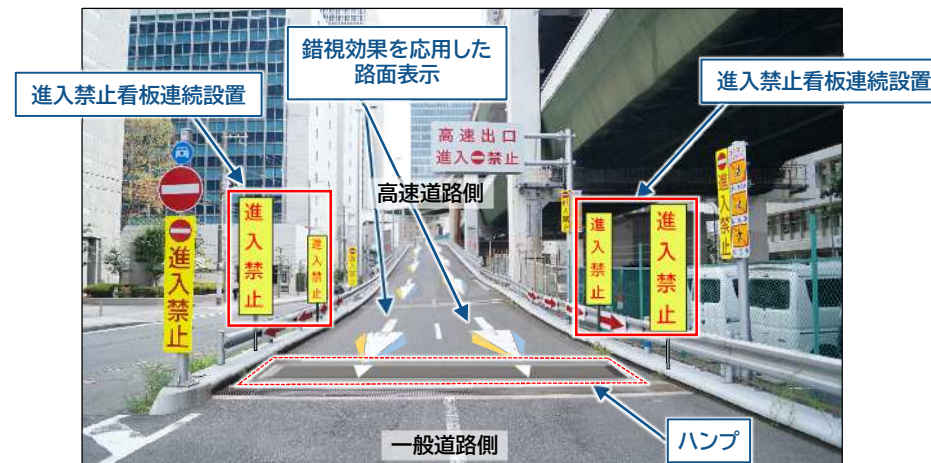
※XR技術:現実の物理空間と仮想空間を組み合わせたリアリティ拡張技術の総称



規制資機材の仮想化の検討イメージ

イラスト:AI生成画像(Copilot使用)

■ 逆走対策重点箇所の整備イメージ



全国統一的な基本的対策を既に実施しているものの、その後も重大事故が発生していることを踏まえ、さらなる対策が必要な施設を選定し重点的に対策を実施(全国で選定された188施設のうち、阪神高速道路の対象施設は4箇所)

M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

(2) 渋滞の解消

- お客さまの行動変容に資する柔軟で利用しやすい料金施策の検討や、より正確できめ細やかな情報提供などの実施
- 既存設備の効果的な運用や車線運用の改良などの施策の実施
- 構造改良による交通容量拡大などのハード施策の検討

数値目標

渋滞損失時間

2028年度
目標値

2025年度水準と
同等水準を維持



■ 行動変容を促す情報提供

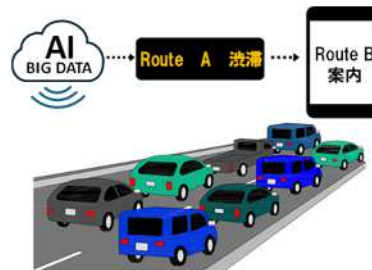


イラスト:AI生成画像(Copilot使用)

AIやビックデータを活用した渋滞緩和に資する情報提供のイメージ

■ ハード施策の検討



断面車線数の増

車線幅による交通容量拡大イメージ
写真:西船場ジャンクション改築事業のうち大阪港線拡幅部(阿波座合流区間)

(3) パーキングエリアにおけるサービスの高度化

- 魅力ある空間の演出による「立寄りたいパーキングエリア」の実現
- 沿線自治体と連携した情報発信やイベント開催などの継続・強化
- AIカメラなどを活用したパーキングエリア利用実態の検証
- バリアフリー化の推進などによるパーキングエリアの利便性向上

数値目標

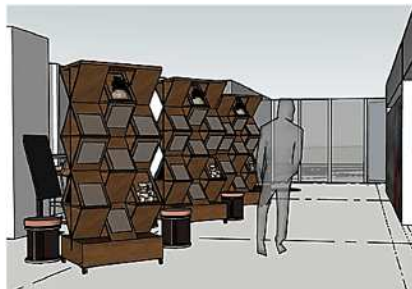
お客さま満足度(PAの提供サービス)

2028年度目標値

4.2



■ 魅力ある空間の演出



「魅せる情報発信」の実現に向けた施設改修のイメージ
(泉大津パーキングエリア)

■ 情報発信取り組み事例



沿線自治体と連携したコンテンツの発信

■ トイレのバリアフリー化

多機能トイレの機能分散を図るなど、トイレ空間の充実を推進



現行の多機能トイレ



車いす使用者用



オストメイト対応
大きめブース



乳幼児対応
大きめブース

M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

(4) 料金所のETC専用化・無人化の推進

- ETC専用料金所の拡大
- 持続可能で効率的な料金収受体制の構築
- ETC専用化に向けた継続的な周知・広報
- 利用しやすい環境づくり

数値目標

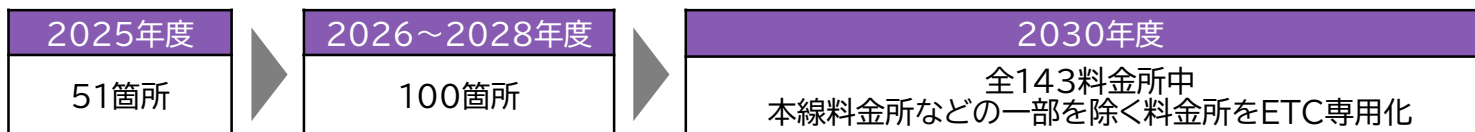
ETC専用料金所
整備箇所数

目標値
(2026~2028年度)

全143料金所中
100箇所



■ ETC専用料金所の拡大



■ 持続可能で効率的な料金収受体制の構築

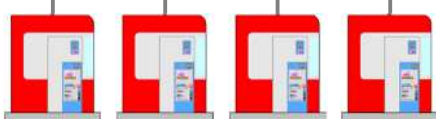
- 遠隔サポートセンター(4箇所)におけるお客さま対応の集約化など



遠隔サポートセンター

遠隔対応による業務内容例

- ・ETCカード未挿入、通信異常への対応
- ・障がい者割引、仮ナンバー車への対応
- ・非ETC車への対応



遠隔対応機器
の設置

■ ETC専用化に向けた継続的な周知・広報

- 各種媒体を用いた周知・広報の継続的な展開
- ETC専用料金所周辺での案内の充実



インターネット動画広告



ETC専用料金所周辺での案内

■ 利用しやすい環境づくり

- 阪神高速すぐログ※の利用拡大
- 現金車のETCへの利用転換を促進



登録無料!
年会費も
かかりません

いつでも、
どこでも
ETC利用履歴
を確認!

走行後
約30分から
確認可能!



※阪神高速すぐログ(阪神高速ETC利用履歴提供サービス):
阪神高速をETC無線通行後30分を目安に、
LINE公式アカウントやメールで利用履歴をご提供

M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

3 長期的な道路機能の維持

道路機能の長期かつ安定的な維持に向け、大規模更新等事業の実施に加え、構造物や設備の計画的な更新・改修などを着実に推進することにより、安全性と耐久性を確保します。

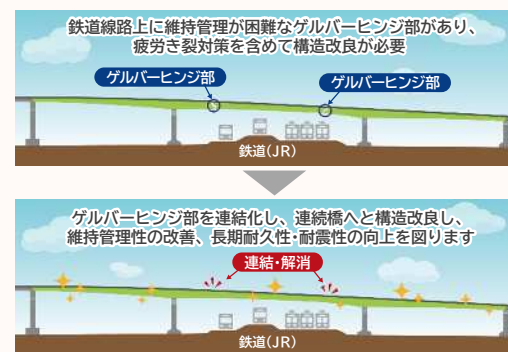
維持管理のコスト増大や担い手不足の課題に対しては、点検や現地作業などの効率化に向け、BIM/CIM・点群データなどの新技術の積極的な活用や保有する各種データベースとの連携を推進するほか、社会変化を踏まえた道路設備のあり方の検討に取り組みます。

(1) 大規模更新等事業の着実な推進

- 11号池田線 加島付近、15号堺線 湊町付近など、事業化済みの大規模更新等事業の着実な推進



11号池田線 加島付近における大規模修繕事業の推進

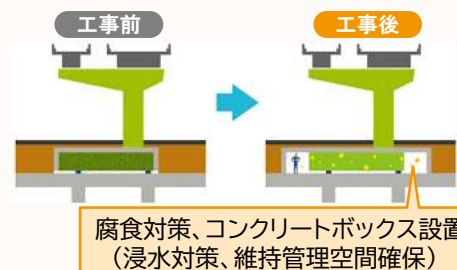


鉄道を跨ぐ連続鋼製橋梁を対象に、橋桁の連続化などを行い、維持管理性・長期耐久性・耐震性の向上を図ります。



15号堺線 湊町付近における大規模更新事業の推進

地下水の影響で腐食が生じている鋼製基礎の防食対策を実施するとともに、新たに維持管理空間の確保と耐震性の向上に向け工事進捗を図ります。



M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

(2) 老朽化対策の着実な推進

- 床版、長大橋の計画的かつ合理的な補修
- 受電所及び変電塔の計画的な更新
- トンネル防災設備更新工事の継続

■ 受電所の更新

- 2028年度末までに深江受電所の更新を完了

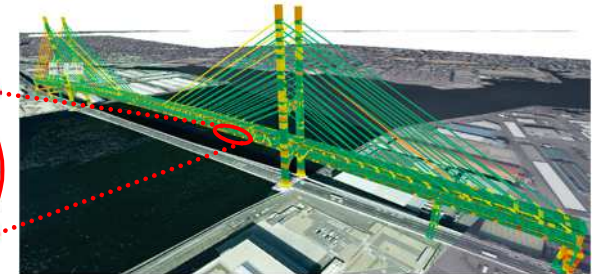


■ 長大橋の計画的補修

- 東神戸大橋などにおける損傷の計画的な補修の推進



ボルトの損傷状況



3次元モデルによる損傷状況の可視化

(3) 維持管理業務の効率化・高度化

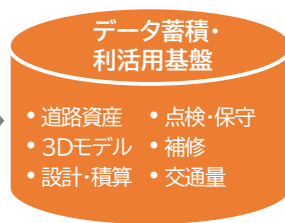
- 維持管理、交通管理などのデータ連携を通じたデータ利活用の推進
- BIM/CIM・点群データの活用推進による点検の効率化・高度化
- 非破壊検査や遠隔監視点検など点検・診断における新技術の採用
- 各種データを用いた損傷劣化予測手法の開発
- 非常電話の設置個所の見直しや道路照明設備の試験消灯など、社会変化に適応した施設設備のあり方の検討

■ データ利活用の推進

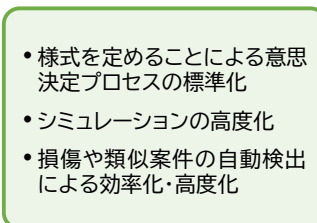
各種データの収集



データの整理・統合



データ利活用による業務の効率化・高度化を実現

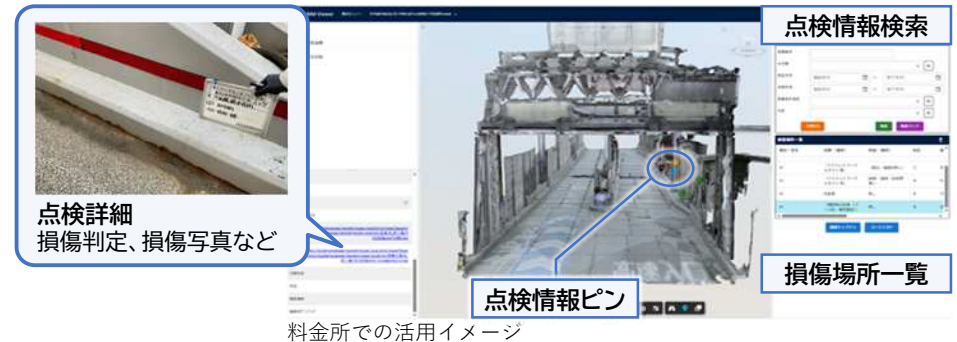


- 点検管理システム、交通関係データなど阪神高速COSMOS※の各データベースの精度向上と網羅性確保
- 各種データの連携により、維持管理や防災対策の効率化・高度化を実現

※阪神高速COSMOS: 阪神高速グループが保有する膨大な道路管理データを集約する情報システム群

■ 点群データを活用した点検の効率化・高度化

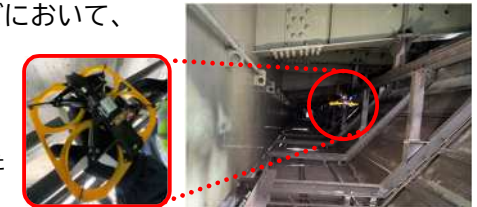
- 点検作業を効率化するため、点群データによる3次元モデルと阪神高速グループ会社間で点検情報などを一元管理しているシステムの連携を推進



料金所での活用イメージ

■ 点検・診断における新技術の積極的な採用

- 点検困難箇所における構造物点検などにおいて、ドローン技術を広域に活用



マイクロドローンを用いた側面板内の点検状況

M.変わらぬ使命をサステナブルに遂行

4 大規模災害時における安全と道路機能の確保

大規模災害発生時には、お客さまの安全確保を最優先としつつ、迅速かつ的確な道路機能の確保・復旧を可能とするため、道路構造物や設備の耐震機能の補強を図るとともに、非常用自家発電設備の増強、災害対策本部と現地推進本部間を結ぶ拠点間通信機能の確保、リモートセンシング技術の活用などにより災害時対応を高度化することで、復旧力(レジリエンス)の向上を図ります。

(1) 耐震機能の強化

● 道路構造物・設備の耐震補強工事の推進

■ 道路構造物の耐震補強

今後の大規模災害時に早期に道路機能を確保できるよう、橋脚の補強および支承部の改良などのさらなる耐震対策を推進



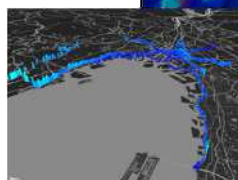
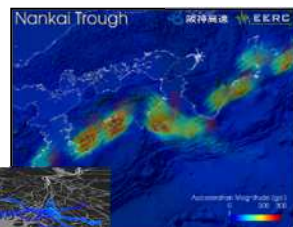
(2) 災害時対応の高度化

- 全路線ネットワークモデルを活用した南海トラフ地震における構造物などへの被害シミュレーションの高度化による災害対応力の強化
- 災害対応の迅速化・効率化に向けたリモートセンシングなどの活用検討
- 非常用自家発電設備の増強

- 道路機能の早期確保に向けた他機関との連携強化
- 大規模災害時の即応・復旧を支える災害対応オペレーションの深化
- 災害発生時でも安定的に稼働できる通信ネットワーク構築
- 総合防災システム、道路管理システム等の強化

■ 被害シミュレーションの高度化

- 全路線ネットワークモデルを活用し、南海トラフ地震を想定した構造物の被害リスクを評価
- 実効的な対策の優先度付けに活用



南海トラフ地震シミュレーション

■ 大規模災害時のオペレーション深化

大規模災害時にも実効性のある対応を実施できるよう訓練などを通じてオペレーションを深化



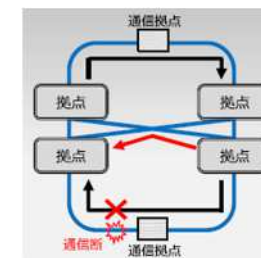
中央分離帯開口部開口訓練



段差発生箇所 仮通路設置訓練

■ 災害時における通信ネットワーク確保

ネットワーク構成の最適化、災害時のバックアップ回線確保を推進



通信ネットワークの構築イメージ



Innovation Field

新たな価値の創出

I-01. 移動・モビリティの高度化

1. 移動・輸送の進化への貢献
2. 多様な移動サービスの提供

I-01.移動・モビリティの高度化

1 移動・輸送の進化への貢献

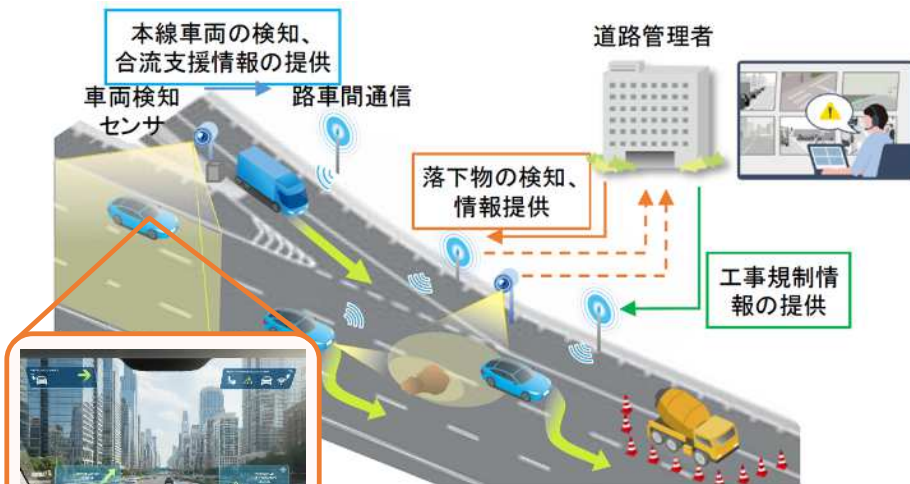
移動・輸送の高度化・最適化に向けて、関係者と協働して自動運転走行の段階的な技術検証を行うなど、自動運転技術の社会実装に向けた取り組みを推進します。

また、物流事業者などと連携し、現場の運用実態やニーズを把握し課題解決について検討します。

(1) 阪神高速道路上での自動運転走行実現に向けた取り組み

- 自動運転走行実現に必要な構造、運用、設備などについて検討
- 自動運転車両と手動運転車両が混在する状況を想定したスムーズな交通流の実現に向けた検討
- 物流拠点のニーズや課題などを把握し、課題解決について検討

■ 自動運転走行の実現に向けた検討



出典：自動運転インフラ検討会(第1回)

自動運転車両の普及や技術開発の状況を把握し、安全・安心・快適な走行環境を提供するために必要な技術検討を推進

イラスト:AI生成画像
(ChatSense使用)

万博における路車協調による自動運転支援の取り組み実績

淀川左岸線1期・2期区間を運行した自動運転バスに対して高速道路側の車両検知センサで合流車両を適切に検知し、かつ速やかに自動運転バスへ情報提供することによりスムーズな自動走行に寄与しました。



※LTE:高速な通信を実現するモバイル専用の通信規格の一つ

I-01.移動・モビリティの高度化

2 多様な移動サービスの提供

企画割引による移動と沿線施設などの利用の決済をシームレスに連動させるほか、都市内移動の効率化に向けて交通モード間の連携を推進します。沿線施設や地域との連携による利便性の向上に加え、お客さまの移動ニーズに基づく情報分析を進め、LINE公式アカウントなどを通じて高度でタイムリーな情報提供を行うことで、さらなるサービスの充実を図ります。

(1) 企画割引を通じた移動サービスの充実

- 移動と沿線施設などの利用をシームレス決済できる仕組みの提供
- 沿線の市町・地域まちづくり法人・事業者と連携したセット販売先の充実

■ 移動サービスの充実

チケット販売サイトとの提携による観光施設プランとのセット販売を通じた企画割引(土日祝限定)の魅力度及び周遊性の向上



(3) 沿線施設と連携した利便性を高めるサービスの面的展開

- 駐車場を備えた商業施設など沿線施設との連携により日常的に使えるサービスの面的展開

■ サービスの面的展開による利便性の向上

駐車場を備えた商業施設などとの連携を通じて、休憩・エンターテインメント・給電など、お客さまの多様な移動ニーズに合わせたサービスを展開



イラスト:AI生成画像(Copilot使用)

(2) 都市内移動の効率化に向けた交通モード間連携

- ETCスマート割※の展開や他の交通モード事業者との連携

■ パークアンドライドなどを活用した取り組み



※ETCスマート割:阪神高速の混雑時間帯や混雑路線を避けてETCでご利用いただくと駐車場料金を割引するサービス

(4) 交通データを活用した移動サービス向上に資する技術開発

- クルマの移動に関するデータと、当社の保有するデータを活用し、安全性など、移動価値の向上に資する技術の開発
- 事故や渋滞などの注意喚起情報を走行中のお客さまに提供する技術の実装



I-01.移動・モビリティの高度化

(5) モビリティ情報提供の充実・高度化

- 交通デジタルツイン※1に基づき交通の最適化を図る「プロアクティブな交通マネジメント※2」の本格実装を目指した課題整理と検討の深化
- LINE公式アカウントの機能拡充などにより、モビリティ情報サービスのハブとしてより利便性の高いコンテンツを構築

■ プロアクティブな交通マネジメント

万博期間中に実施した実証実験での課題を踏まえ、交通デジタルツインを用いたプロアクティブな交通マネジメントの本格実装を目指して検討を深化

※1 交通デジタルツイン: 現実世界で最適な交通マネジメントを行うために、観測データに基づき、デジタル世界で膨大な試算を行い、最も評価の高い施策を導出する「リアルタイム交通シミュレータ」

※2 プロアクティブな交通マネジメント: 渋滞などの変化の予兆を捉え、渋滞予測を踏まえた最適な施策を事前に導出して実行する実効性の高い交通マネジメント

① 万博実証の構成



- A) モニタリング : 多様なデータを随時取得して交通需要・交通環境・交通状況の変化を把握
 B) リアルタイム予測 : 取得データに基づく「リアルタイム交通予測」を繰り返し実施
 C) サービス提供 : 使いやすいユーザインターフェイスによりお客さまにサービスとして提供

② 万博実証で得られた課題と検討の方向性

万博実証において課題だった交通変化への即応性、サービスに対する受容性、運用スキームなどの課題に対し、本格実装を目指して検討を深化

■ LINE公式アカウントの活用

- 当社ホームページなどの情報発信コンテンツや道路交通情報との連携を強化
- AIの活用も視野に、LINE公式アカウントの機能を拡充し、より利便性の高いコンテンツを構築



阪神高速すぐログによる利用履歴の確認

現行機能

- ・料金検索
- ・出発前の交通情報
- ・当社発信情報の問い合わせ(検索)
- ・阪神高速すぐログ (阪神高速ETC利用履歴提供サービス)
- ・パーキングエリア情報
- ・阪神高速沿線のお出かけ情報

機能拡充による利便性向上

- ・社内の情報発信コンテンツと連携
- ・ETC専用料金所及び関連する工事に関する情報配信
- ・阪神高速道路の工事などによる通行止めやその解除に関する情報配信
- ・阪神高速沿線のお出かけ情報にあわせたお得なクーポン配信
- ・AIを活用した問合せ回答機能





Innovation Field

新たな価値の創出

I-02. 多様な機能を提供する都市インフラ

1. 周辺地域と調和した景観の形成
2. 阪神高速の有効活用に向けた検討

I-02.多様な機能を提供する都市インフラ

1 周辺地域と調和した景観の形成

道路構造物を景観面から評価する仕組みを構築し、評価結果を活用することで長期にわたる良好な都市景観の形成に寄与します。また、地域の取り組みに協力したライトアップの実施などにより、周辺地域と調和した景観づくりを推進します。

(1) 周辺地域と調和した景観の形成

- 道路構造物を景観面から評価する仕組みの構築と結果の活用
- 地域の取り組みに協力したライトアップの実施

■ 大阪・関西万博の開催に合わせて実施した特別ライトアップ(中之島エリア橋脚)



2 阪神高速の有効活用に向けた検討

構造物や高架下空間など阪神高速を都市インフラとして有効活用し、新たな価値を提供するため、将来に向けた検討を推進します。

- 多様な目的のための有効活用
地域ニーズに応じて、商業施設、物流施設、情報処理施設、コミュニティ空間などとして多目的に活用する方法
- 地域防災の拠点化
災害時に避難所・支援拠点など防災拠点として活用する方法
- エネルギーの供給
再生エネルギーを発電し、通信設備やドローンなどに給電する方法



電気自動車をより利用しやすくする拠点整備



耐災害性が強化された幹線道路ネットワーク
出展:「2040年、道路の景色が変わる」(国土交通省)



Innovation Field

新たな価値の創出

I-03. 関西さらにはグローバル視点での価値

1. 持続可能な地域づくり
2. モビリティ認証パッケージの提供
3. 保有資産(ハード)などを活用した事業の展開
4. 技術・ノウハウを活用した事業の展開
5. 気候変動への対応

I-03.関西さらにはグローバル視点での価値

1 持続可能な地域づくり

保有施設を活用したイベントや地域間をつなぐ企画の実施を通じて地域との連携を強化しながら、観光資源の共創や、防災に関する相互協力体制の強化などにより、持続可能な地域づくりに貢献します。

(1) 地域連携の強化と観光資源の共創

- 泉大津PA(海側)11階展望ルームなどの保有施設での地域連携イベントの開催を通じた、自治体及び地域事業者との関係の強化・深化
- 複数地域の周遊促進など、地域と地域をつなぐ企画の実施
- 効果的な地域づくりに貢献するため、自治体や地元企業が行う地域活性化や観光資源の掘り起こしの取り組みとの連携・支援を実施

■ 地域連携の強化

地域活性化に資する施策を継続的に発展させるための事業モデルを構築



パーキングエリアでの地域連携イベント



地域と連携した周遊企画

(2) 防災に関するノウハウなどの提供

- 阪神高速グループ内の防災に関する保有技術を整理・体系化するとともに、自治体などのニーズを調査し、連携可能性について検討
- 自治体などのニーズに応じた防災相互協力体制の強化

■ 保有技術の活用



軽量な段差補修資材の開発

■ 防災相互協力体制の強化



陸上自衛隊との合同実動訓練

I-03.関西さらにはグローバル視点での価値

2 モビリティ認証技術の活用

「ETCによるモビリティ認証技術※」の多目的利用に向け、システムやノウハウなど一連の仕組みを『モビリティ認証パッケージ』として様々な企業・事業者のみなさまに提供し、交通課題や社会課題の解決に貢献します。

(1) モビリティ認証パッケージの提供

- 顧客ニーズに合わせたモビリティ認証パッケージの提供
- ETCスマート割を交通モード間連携へと拡大し、さらに利便性を向上
- ETCスマート割のさらなる利用促進

■ モビリティ認証パッケージの活用例

- ETCスマート割** 阪神高速の混雑時間帯や混雑路線を避けてETCでご利用いただくと駐車料金割引サービス(実証実験中)。交通モード間連携にも拡大を検討【P17参照】
- 大型商業施設** 大型商業施設への来場・退場渋滞が生じている場合、経路や時間帯による交通混雑緩和がETCにより実現可能
- 物流センター** 物流センターへの入退場受付業務で天候などに影響されない高い精度の車両管理自動化がETCにより実現可能

モビリティ認証パッケージの活用シーン



モビリティ認証パッケージの特徴

- 天候、外乱、汚損などに影響されず精度が高い
- カメラなどより故障が少ない
- タッチレス、ワンストップで認証できる
- 偽造困難で気密性や安全性が担保されている
- すべてのETCカードが使える分かりやすさ

※モビリティ認証技術: ETCを利用して車両と運転者、施設などの利用者を認証し多用途に活用する技術

「ETCによるモビリティ認証技術」の仕組み



万博P&Rで「モビリティ認証技術」を導入し高い信頼性を実証

- 万博では、会場アクセスの混雑緩和を目的としてP&R利用料金を変動させるダイナミックプライシングを導入。
- 阪神高速は、「ETCによるモビリティ認証技術」を用いて、①予約情報、②ETC入庫情報、③ETC通行履歴情報を自動的に認証/照合/判定することで、料金割引の対象車両を特定。(日本初の試み)。
- 天候などに影響されない高い精度や安定した稼働を実証し、未来社会でも交通課題解決にETCが貢献できる可能性を明らかにしました。

I-03.関西さらにはグローバル視点での価値

3 保有資産(ハード)などを活用した事業の展開

保有するハード資産を戦略的に活用し、安定的かつ拡張性のある事業展開を図ります。駐車場事業においては、駐車場予約サービスの柔軟な提供を図るなど、利便性と信頼性の向上に努めます。不動産事業においては、成長機会を踏まえた積極的な物件取得と取得後の安定的維持により資産価値を保全・向上させるなど、保有資産の戦略的かつ有効な活用に取り組みます。

(1) 駐車場事業

- 月極駐車場の空き枠や運用状況に応じて駐車場予約サービスを柔軟に提供
- 新規開設に適した駐車場用地への積極的な展開
- より使いやすい駐車場を目指した計画的な維持管理の推進

■ 駐車場予約サービス「リザパー※」の提供



リザパー駐車場の運用



サービス画面
(スマホアプリ)

※リザパー: スマホアプリで駐車場の検索・予約・決済をオンラインで完結できるサービス

(2) 不動産事業

- 阪神高速道路周辺地域の需要を踏まえた新規物件の積極的な取得と投資エリアの拡張
- 計画的な修繕や付加価値提供による物件価値の安定化
- 地域と連携したサービス展開の場とするなど、保有不動産を新たな視点で有効活用

■ 保有資産のさらなる有効活用



保有施設(展望ルーム)において地域と連携したサービスや情報発信を実施



サービス付き高齢者向け住宅

I-03.関西さらにはグローバル視点での価値

4 技術・ノウハウを活用した事業の展開

蓄積してきた技術・ノウハウを基盤に、国内外で事業を展開します。用地補償コンサルティングにおいては、公共用地の取得に関する業務を着実に受託・推進することで、地域の発展に貢献します。技術コンサルティングにおいては、道路の包括管理や自治体向けの業務支援などの事業を拡充し、道路等インフラの維持管理に貢献します。

国際事業においては、国際コンサルタント事業や海外道路事業をはじめ、関係国との技術協力・技術交流に引き続き取り組みます。

(1) 用地補償コンサルティング

- 公共用地の取得に関する業務を自治体や鉄道会社などから受託し、地域の発展に貢献

■ 用地補償コンサルティング事業の3つのサービス

- ① 計画段階から土地の引渡しまで用地取得を支援
- ② 豊富な実績と経験により用地補償に関する課題を解決
- ③ 研修や相談、図書の出版などで用地人材を育成



自治体における道路事業での用地取得支援



自治体向け用地人材育成研修の実施

(2) 技術コンサルティング

- 臨港道路などの包括管理業務を進化
- 自治体向けの業務支援を拡充し、道路等インフラの維持管理に貢献
- 点検・維持・資産データなどの管理システム外販を拡充

■ 維持管理ノウハウの蓄積

点検、診断、補修設計、工事などの実施、資産等管理システムの提供・運用を通じたノウハウの蓄積



■ 道路等マネジメントを包括的に支援

阪神高速道路に近い臨港道路や阪神高速道路を跨ぐ橋の維持管理を代行



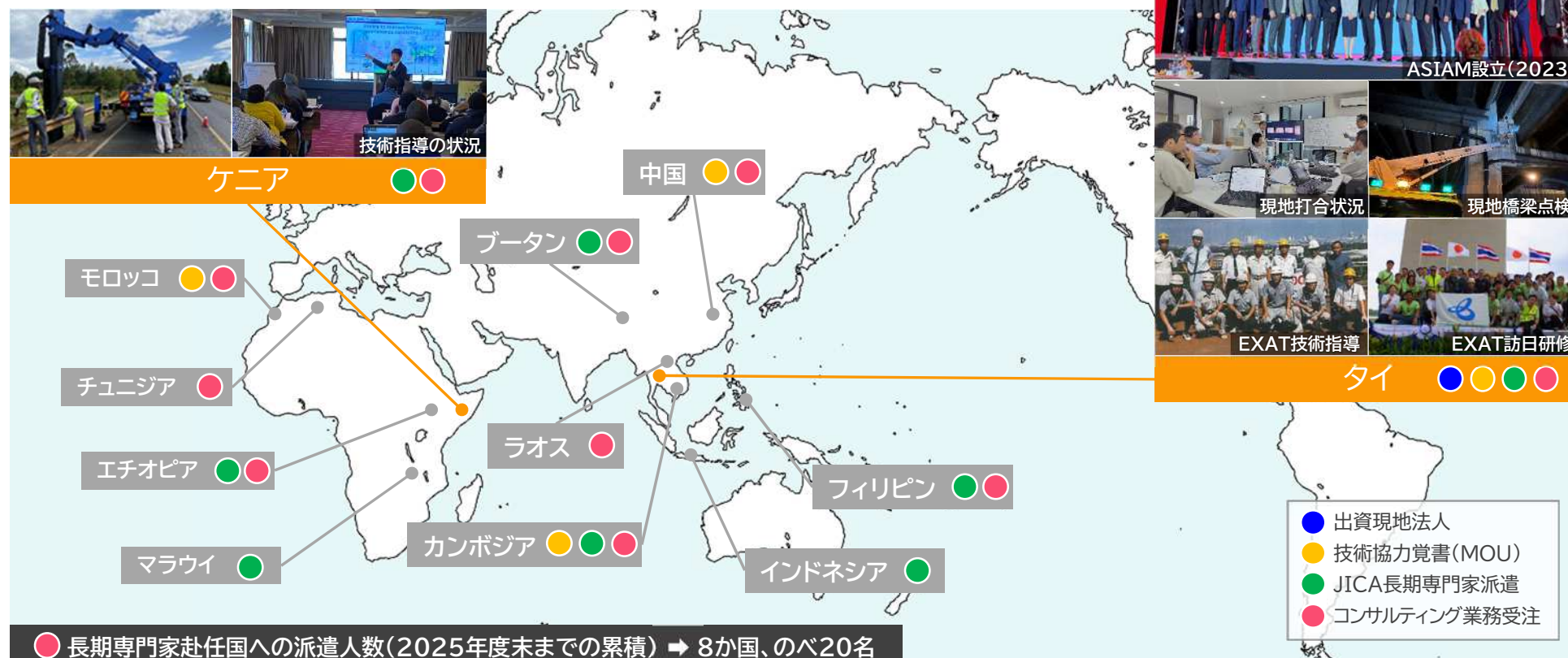
I-03.関西さらにはグローバル視点での価値

(3) 国際事業の継続による国際貢献

- 技術協力・技術交流(MOU※締結先との技術交流、訪日研修受入、JICA長期専門家派遣など)
- 国際コンサルティング事業(JICA発注業務、ケニア国 KeNHA発注業務の実施など)
- 海外道路事業(出資現地法人 ASIAM Infraを通じたタイ国道路維持管理事業への関与など)

■ これまでの取り組み実績

専門家派遣、コンサルティング業務受注、技術協力覚書締結、出資現地法人先



国際経験で培った経験や技術やノウハウ、マインドなどを国内のグローバル化対応をはじめとした国内事業へのリバースイノベーションとしても活用

※MOU:Memorandum of Understandingの略(技術協力・技術交流に関する基本合意書)

I-03.関西さらにはグローバル視点での価値

5 気候変動への対応

「阪神高速グループ 環境行動計画」に基づき環境経営を推進し、なかでも気候変動対策を重要課題と位置づけ、2050年カーボンニュートラルの実現を最終目標に、2030年度までにCO2排出量を2013年度比で50%削減することを目指します。また、既存施策の継続に加え、地球環境保全に資する新技術の開発やネイチャーポジティブへの貢献、積極的な環境コミュニケーションなどの多面的かつ総合的な取り組みを推進します。

(1) CO2排出量削減・地球環境保全への貢献

- 再生可能エネルギーや低炭素コンクリートの活用などによる地球環境保全に資する技術開発の推進
- 道路照明LED化や新築建物のZEB化など事業活動における脱炭素化の推進

数値目標 道路照明LED化 整備率
2028年度目標値 78%



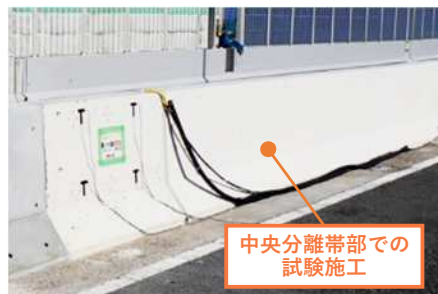
■ 再生可能エネルギーの活用や低炭素コンクリートの適用拡大に資する新技術の開発

- ① ペロブスカイト太陽電池の実装に向けた研究の深化(高速道路の屋外・日射環境における性能確認)
- ② 低炭素コンクリートの耐久性の検証と試験施工を踏まえた適用構造物の評価

ペロブスカイト太陽電池の性能確認状況



低炭素コンクリートの試験施工状況



■ 阪神高速グループ環境行動計画に基づく各種施策

- ① 脱炭素社会への挑戦
 - a) より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)
 - ・ネットワークの拡充・強化、渋滞対策による交通流の円滑化の推進など
 - b) 社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)
 - ・電力等エネルギー使用量の削減、再生可能エネルギーの活用の推進など
 - ・道路照明のLED化、新築建築物のZEB化、太陽光発電設備の整備の推進など
 - c) 地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)
 - ・電気自動車用充電器の設置、ネイチャーポジティブ活動の推進など
- ② 循環型社会の形成
 - ・3R+Renewable(再生可能)の取り組み、グリーン調達の実施など
- ③ 環境啓発とコミュニケーション
 - ・社員研修や環境イベントの実施を通じた環境行動意識の向上など
- ④ より良い都市環境の創造と共生 「I-02 2 周辺地域と調和した景観の形成」を参照



道路照明のLED化



環境イベントを通じた啓発活動(横断幕再生活用)の取り組み



Human Capital Field

人の成長と技術力・ナレッジの進化

1. 人の成長
2. 組織力の強化
3. 技術力・ナレッジの進化
4. 生産性の向上・全体最適化
5. 社会との共創

HC. 人の成長と技術力・ナレッジの進化

1 人の成長

人材マネジメントの強化により、能力開発やキャリア形成の機会を体系的に整備するとともに、多様な働き方を尊重し、さらなる生産性向上に向け勤務環境の継続的な改善をはかります。

これにより社員一人ひとりが能力を発揮できる組織風土を醸成し、組織全体の知見と実行力を高めることで、持続的な企業価値の創出につなげます。

(1) 戦略的な人材マネジメント施策の推進

- 経営を担う中核人材の育成も視野に、多様な力を最大限に活かす戦略的な人事施策の推進
- 社員の成長とやりがいの実感を促す育成施策の拡充と実効性の向上
 - ・多様な人材の積極的採用と育成
 - ・挑戦を通じた成長を促す育成風土の醸成と評価制度の改善
 - ・社員の自主的なキャリアデザインを支援するOFF-JTの拡充

(2) DEI・働きやすい環境の整備

- 多様な働き方、生産性の高い働き方を支える勤務環境の改善・拡充
 - ・育児や介護との両立支援
 - ・ライフステージに合わせた働き方を選択できる勤務制度の拡充
 - ・さらに安心して生産的に働ける勤務環境作りを推進



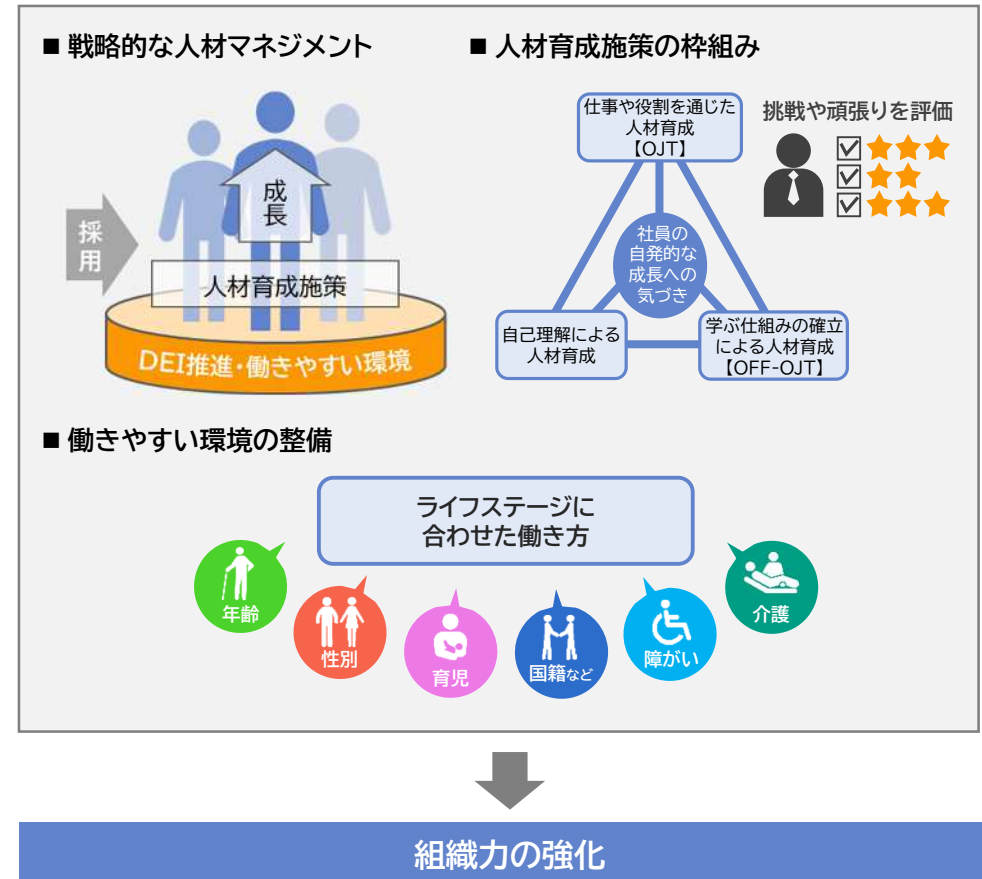
数値目標 新規採用における女性採用者比率

2028年度目標値 40%



数値目標 男性の育児休業取得率

2028年度目標値 100%



HC. 人の成長と技術力・ナレッジの進化

2 組織力の強化

個人の力が最大限に発揮できる人材配置やジョブローテーションを基盤に組織としてのパフォーマンスを向上し、事業理解を深める機会の創出や、さらなるグループマインドの醸成により連携や協働を実現するとともに、グループ経営体制を進化させることで、組織の総合力を高めます。また、環境変化に適切かつ迅速に対応し、社会課題の解決に貢献できるよう組織体制や意思決定プロセスの最適化に努めます。

(1) グループ企業価値の向上

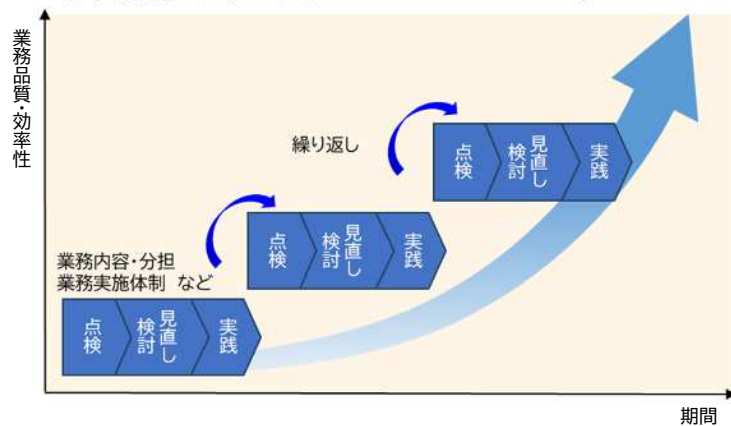
- さらなるグループマインドの醸成とグループ経営体制の進化
- 多様な社員の活躍を促す人材配置や人事交流の推進
- グループの取り組みを社員自らが発信する機会を通じた社員エンゲージメントの向上

■ グループ経営体制の進化に向けた今後の取り組み

- 業務内容・分担の見直し、契約方式の進化など
- 料金所無人化等の業務形態の変化に対応した 業務実施体制の見直し(整理・統廃合など)

さらなる業務品質と効率性の向上に向けて、グループ経営体制の進化に向けた取り組みを継続

【グループ経営体制の進化を実現するプロセスイメージ】

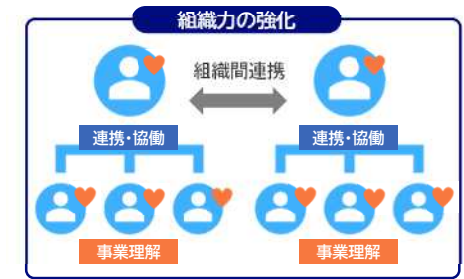


■ グループ意識の醸成



グループ座談会の実施

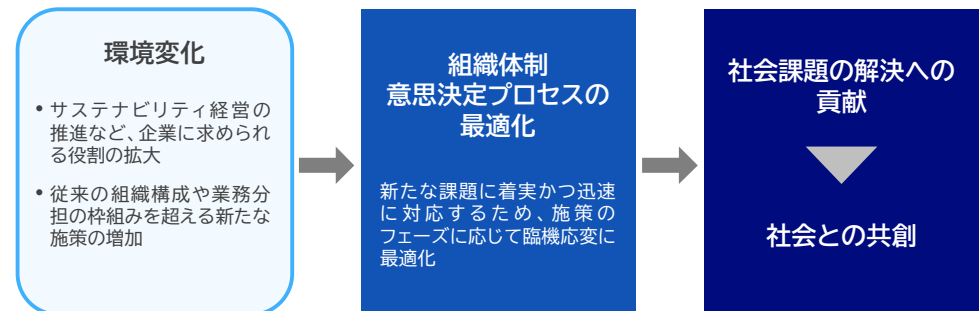
■ エンゲージメントの向上



事業理解の深化を通じた組織強化のイメージ

(2) 社会課題の解決に向けた仕組みづくり

- 環境変化に適切かつ迅速に対応できる組織体制や意思決定プロセスの最適化



HC. 人の成長と技術力・ナレッジの進化

3 技術力・ナレッジの進化

ソーシャルロスの低減や環境負荷の軽減、生産性の向上に資する研究開発を着実に推進するとともに、現場で培われたノウハウや経験・実績を含む阪神高速グループの技術・知見を継承・発展させ、R&Dマネジメントの高度化を通じてナレッジの進化を実現します。

(1) 社会課題に対応する技術開発

- 大規模更新等事業や老朽化対策での採用を見据え、交通影響などのソーシャルロス軽減や道路資産の長寿命化などに資する革新的技術開発の推進
- 省人化・省力化や環境負荷軽減などの社会的課題の解決、及びお客さまサービスの品質向上の実現に向けた研究開発の推進
- 研究開発のさらなる実効性向上に向けたR&Dマネジメントの高度化
- 新たな価値創造に向けた産官学連携による研究・技術開発の推進

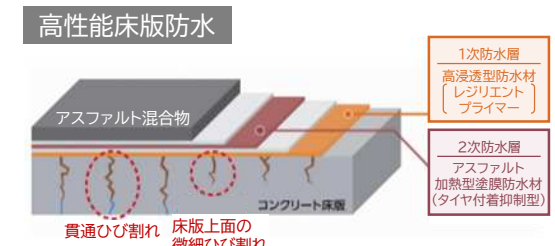
■ 多様な分野での技術力・ナレッジの進化を実現



【ソーシャルロスの軽減・長寿命化などに係る既往の開発技術の例】



短期間でのRC床版更新技術

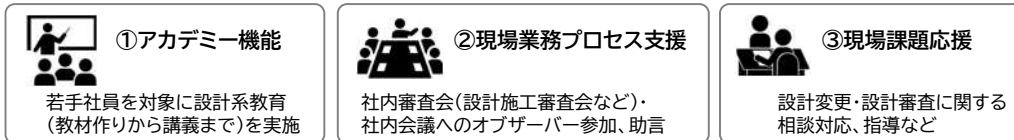


床版防水の高機能化による橋梁の長寿命化

(2) 技術の着実な継承と強化

- 技術の効果的な活用と着実な継承に向けた技術の形式知化の一層の推進
- ベテラン社員が持つ豊富な知見の効果的な活用施策の推進
- 職場を離れた学習機会の充実など、技術の獲得・継承に資する場の醸成

■ ベテラン社員の知見の効果的な活用



■ 職場を離れた学習機会の実施



技術研究発表会での論文発表・聴講



技術継承プログラムの活動(職場を離れた専門分野の学習)



震災での被災・復旧経験の伝承(震災資料保管庫の公開)

HC. 人の成長と技術力・ナレッジの進化

4 生産性の向上・全体最適化

担い手不足などの課題へ適切に対処していくため、業務フローの可視化・整理やAIなどデジタル技術の積極的な活用による業務効率化を進め、創出した時間を業務の高度化・高品質化に振り向けます。また、データ利活用や受発注者双方の負担軽減などを通じて、社内外の業務を省力化・効率化し、生産性向上と全体最適化に努めます。さらに、これらを支える安全な情報システム基盤を構築するため、情報セキュリティ対策を強化します。

(1) 業務効率化

- 業務フローの可視化・整理を通じたさらなる業務効率化の推進
- デジタルデバイスやAI、RPAなどのデジタル技術の積極的な活用
- データ蓄積・利活用基盤のさらなる活用推進
- 調達業務の効率化を目的とした「阪神高速版調達ポータル(PROZIT)」の全社展開により受発注者双方の負担を軽減
- 品質管理の効率化・高度化に向け、データの一元管理による施工管理基準の整備
- 建設現場での生産性向上に資する工法・資材などの積極的活用に向けた取り組みの推進

■ 建設現場での生産性向上

生産性向上に資する工法・資材などの積極的活用に向けた取り組みを推進



プレキャスト床版の施工イメージ

出典:国土交通省資料



システム足場の例

出典:日本橋梁建設業協会資料

- 「阪神高速版調達ポータル(PROZIT※1)」と「工事情報等共有システム(Hi-Telus※2)」の活用によるデータ共有のシームレス化

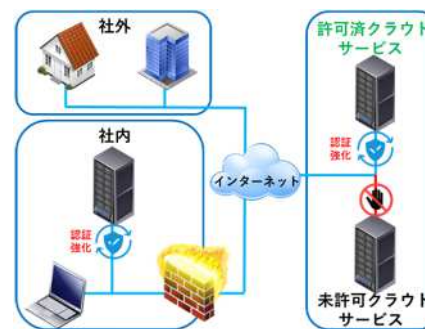


※1 PROZIT: 工事などの調達において、競争参加資格申請から契約までの一連の手続きをオンラインにより一元化するシステム【入札手続きは電子入札システムにより対応】

※2 Hi-Telus: 工事・業務契約などにおける「連絡・調整」や「書類作成・取り交わし」の手続などをクラウド上で共有するシステム

(2) 情報セキュリティ対策の強化

- 情報漏洩やサイバー攻撃のリスクへの対応
- セキュリティコンプライアンスの徹底



■ サイバー攻撃への対応

ゼロトラストセキュリティ※の実現に向けた強固な認証基盤の検討

※ゼロトラストセキュリティ: すべてのアクセスを毎回確認する仕組み

■ セキュリティコンプライアンス

未許可クラウドサービスを検知し、セキュリティルールを守る仕組みを強化

HC. 人の成長と技術力・ナレッジの進化

5 社会との共創

「徹底したお客さま目線」を基本姿勢としてお客さまの声を経営に取り入れ、施策の決定・実行とその情報発信・広報展開を通じて、社会の期待に応え、お客さまにより一層の満足を実感していただくことを目指します。また、社会課題の解決を目指して多方面との相互理解と信頼関係の醸成を図ります。

(1) 戦略的・効果的な情報発信

- 阪神高速の事業や取り組み、保有技術に関する情報の適切かつ積極的な発信
- 情報発信を通じた企業イメージの形成

■ 情報発信の取り組み姿勢

- 世代などの特性に合わせて広報媒体を選択するメディアミックス戦略の実践
- 社員の「顔の見える広報」や公式キャラクターなどの積極的な活用による親しみやすい広報を展開
- 「お客さまの声に耳を傾け、お客さま一人ひとりを大切に想い、安全・安心・快適な道路サービスを提供し続ける」阪神高速グループの統一イメージの構築・定着



社員の「顔の見える広報」



動画広告



©AM/F-27-1

阪神高速道路 公式キャラクター
もぐらのコージくんファミリー

(2) 活発な双方向コミュニケーション

- 社会貢献活動の推進
- 多方面の事業者や業界団体との相互理解と信頼関係の醸成
- CS改善サイクルによるお客さま満足向上への取り組み

■ 社会貢献活動

「阪神高速 未来(あす)へのチャレンジプロジェクト」などを通じた地域・社会の課題解決や持続的発展への貢献



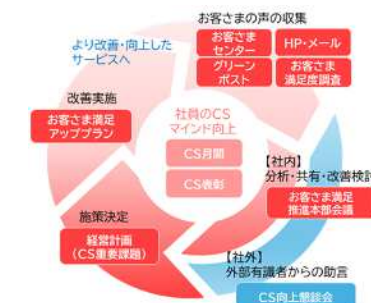
■ 相互理解と信頼関係の醸成

- 業界団体などとの定期的なコミュニケーションを通じて信頼関係を構築
- IR活動およびサステナビリティファイナンスによる資金調達を通じ、投資家の皆さまと長期的な信頼関係を構築



■ CS改善サイクル

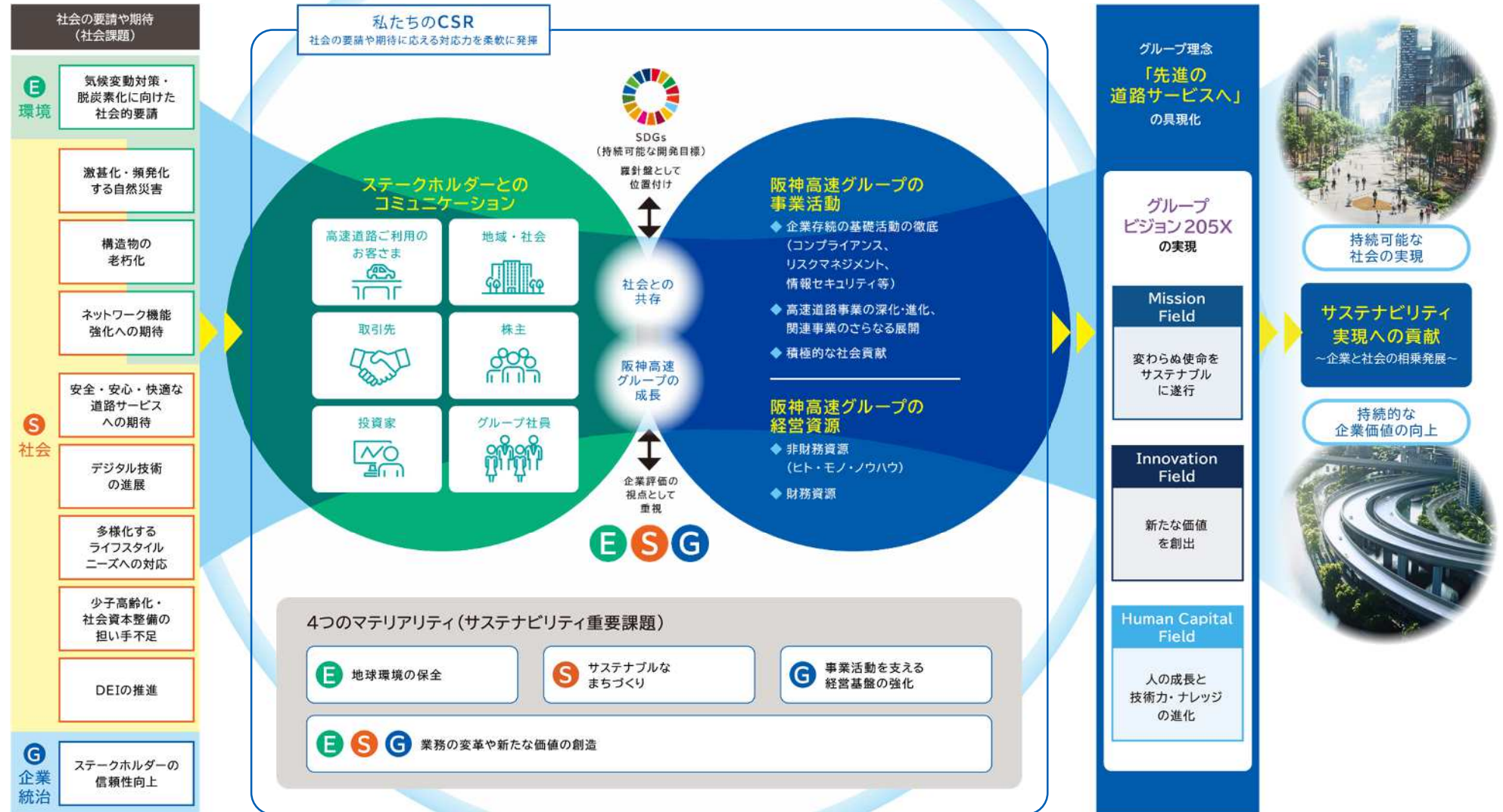
お客さまの声を経営に反映し、より改善・向上した道路サービスを提供



【参考】阪神高速グループのサステナビリティへの基本姿勢について

近年、環境・社会課題がグローバルに拡大し、国や自治体だけでなく、企業、個人など社会全体で課題を解決し、持続可能な社会を実現することがより一層求められています。

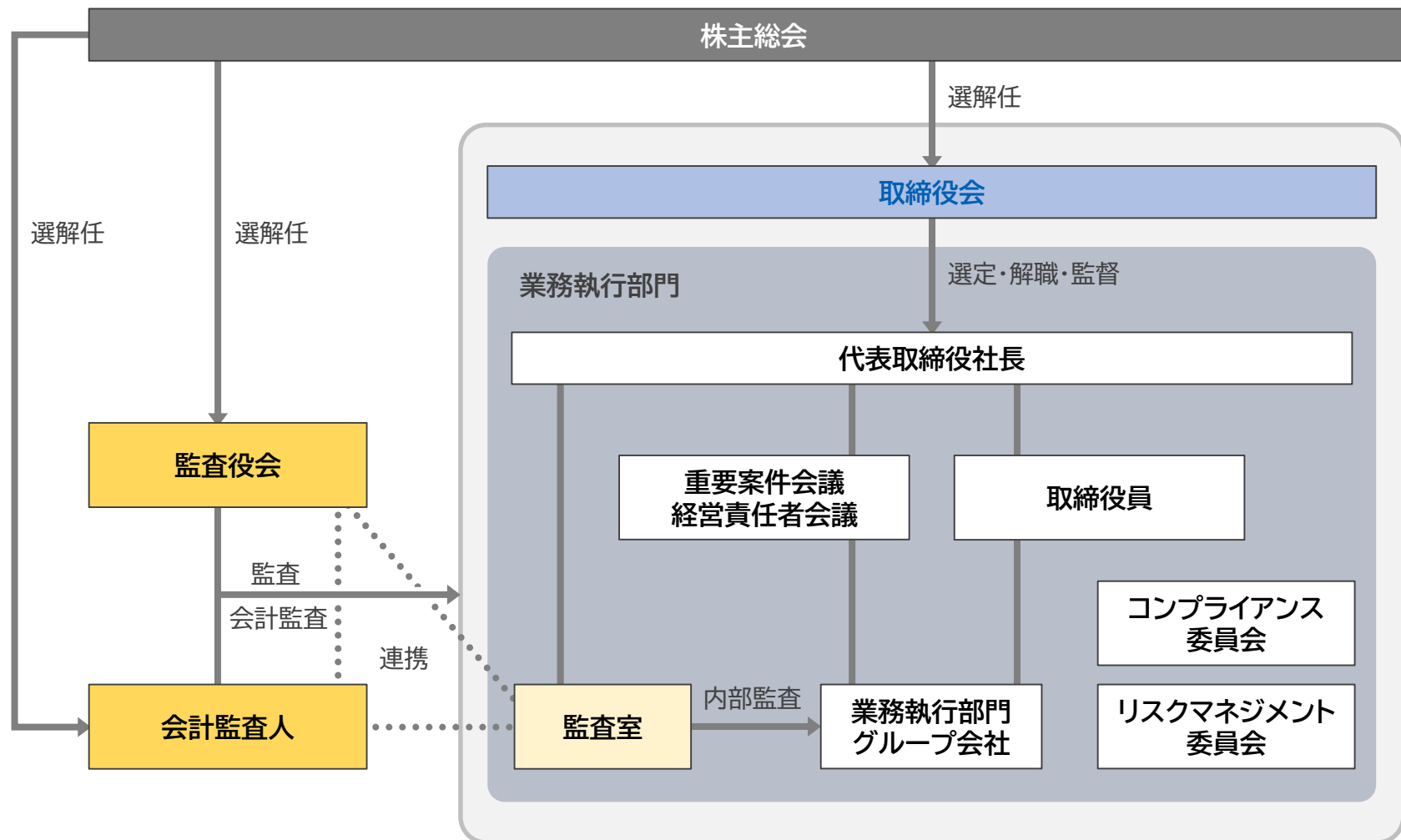
阪神高速グループは、社会情勢の変化や社会の潮流を敏感に捉え、社会を構成する一員として「サステナビリティ」を共通の価値観と認識し、グループ理念「先進の道路サービスへ」の具現化を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、持続的な企業価値の向上を目指します。



【参考】コーポレート・ガバナンスなどの管理体制

阪神高速グループでは、すべてのステークホルダーから信頼される企業グループであり続けるため、コーポレート・ガバナンスの充実を最重要課題の一つとして位置付けています。具体的には、経営の意思決定、業務執行および監督、さらにはグループの統制、情報開示などについて適正な体制を整備し、経営の健全性、効率性および透明性の確保に努めています。

【ガバナンス体制図】



【参考】阪神高速グループ

258.1kmのネットワークを有する関西都市圏の大動脈として、関西の暮らしと経済の発展を支える重要な役割を担う阪神高速道路。
 阪神高速道路(株)は、高速道路の「安全・安心・快適」に密接に関わる保全点検、維持修繕、交通管理及び料金収受を中心に、専門的技術・知識を有する子会社と共に、グループ経営体制を構築しています。
 そして「先進の道路サービスへ」を阪神高速グループ共通の基本理念として、グループ一丸となって連携を強化し、「安全・安心・快適」なネットワークをお客さまに提供していきます。



【参考】中期経営計画の数値目標一覧

本中期経営計画においては、各施策の着実な実行と成果の可視化を図るため、重要な数値目標を設定し、施策横断で一貫性を高める観点から、本ページに集約して整理しました。計画期間を通じた達成状況の確認に活用するとともに、経営の実効性向上を図ってまいります。

領域	指標	目標値	参照	概要
M	死傷事故率	10.0件/億台キロ	P9	自動車走行車両1億台キロあたり(1万台の自動車が1万キロ走行した場合に相当)の死傷事故件数を示すもので、安全対策の成果を表す中核指標です。これまでの実績を考慮しながら、それを上回る高い目標を設定しています
	快適走行路面率	95%	P9	快適に走行できる舗装路面の車線延長比率を示すもので、お客さまが体感される走行快適性を可視化して舗装管理等の成果を表す指標です。舗装の更新・補修計画と維持管理体制を前提に、安定的に達成可能な目標を設定しています
	逆走対策重点箇所整備完了箇所数	4箇所	P9	逆走の発生リスクが高いと判断された4箇所の阪神高速出口において、全国統一の基本的対策に加えて、さらなる逆走対策を重点的に実施し、計画期間中の整備完了を目指します
	渋滞損失時間	2025年度と同等水準を維持	P10	渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間を示す指標です。ネットワークが整備されるまでの間も円滑な道路サービスを提供するため、渋滞対策を推進し、交通状況(交通量や車間距離の傾向)等を踏まえ、現行水準の維持を目標とします
	お客さま満足度(PAの提供サービス)	4.2	P10	パーキングエリアにおいて提供するサービスへのお客さまの満足度を示すもので、サービス改善の成果を可視化する指標です。今後の休憩機能や利便性の向上の取り組みにより、これまでの満足度を上回ることを目指します
	ETC専用料金所 整備箇所数	100箇所	P11	安定した高速道路サービス提供のために効率的で持続的な料金収受を実現する取り組みです。2030年度の整備完了(本線料金所など一部を除く)に向けて、計画期間中に全143箇所の料金所のうち100箇所での整備完了を目指します
	橋梁・トンネル・附属物の点検実施率	100%	P13	道路資産の健全性を確保し安全・安心な道路サービスを持続的に提供することを目的とした、法令に基づく計画的な点検の実施率及び、点検結果に基づく必要な修繕の着手率を示す指標です。これまでも着実に実施してきた取り組みを踏まえ、2028年度までに対象施設すべての点検と必要な修繕を確実に実施することを目標としています
	橋梁・トンネル・附属物の修繕着手率	100%	P13	道路資産の健全性を確保し安全・安心な道路サービスを持続的に提供することを目的とした、法令に基づく計画的な点検の実施率及び、点検結果に基づく必要な修繕の着手率を示す指標です。これまでも着実に実施してきた取り組みを踏まえ、2028年度までに対象施設すべての点検と必要な修繕を確実に実施することを目標としています
I-03	不動産事業の収益成長率	20%	P25	当社が保有する技術力・ノウハウやアセットを活用した事業の収益成長率を示すもので、成長戦略の実効性を評価する指標です。中期経営計画期間の事業展開の見通を踏まえながら、収益基盤の持続的強化につながる目標を設定しています
	技術コンサルティング事業の収益成長率	25%	P26	
	道路照明LED化 整備率	78%	P28	2030年度までにCO ₂ 排出量を50%削減(2013年度比)するよう、脱炭素化の取り組みの一つとして、道路照明のLED化を推進します。2030年度までに整備を完了するように計画期間中の目標を設定しています
HC	新規採用における女性採用者比率	40%	P30	多様な人材の活躍により組織の実行力と持続性を高める取り組みの一つとして、新規採用における女性採用者比率を高めます。これまでの実績を踏まえ、人材ポートフォリオの多様化につながる目標を設定しています
	男性の育児休業取得率	100%	P30	
総合	関連事業営業収益(連結)	61億円(平均)	—	関連事業の積極的な推進に向けた取り組みの成果を示す指標です。中期経営計画期間の事業展開の見通を踏まえながら、収益基盤を持続的に強化することで経営の安定性向上につながる目標を設定しています
	関連事業営業利益率(連結)	3%(平均)	—	関連事業の効率的な実施に向けた取り組みの成果を示す指標です。事業特性やこれまでの実績を踏まえ、持続的な利益確保により継続的に事業運営するための目標を設定しています
	お客さま満足度(総合)	4.1	—	高速道路サービス全体に対するお客さまの満足度を5点満点で示す指標です。お客さまの声に応えるサービス改善の取り組みにより、満足度の安定的な維持と向上を目指します



◆ 2026年4月発行

◆ 掲載内容は、特に指定のない限りは本中期経営計画の発行時点の情報です。